

| コード | 名称 | 区分 | コード | 名称 |
|-------------|--------------------------|----------|------------------------|-----------|
| 事業名 | 100-1 都市間交流推進事業(大津市との交流) | 会計 | 01 | 一般会計 |
| | | 款 | 02 | 総務費 |
| | | 項 | 01 | 総務管理費 |
| 基本 施策 | 54 地域資源を活かして、他地域と交流する | 目 | 07 | 文化振興費 |
| | | 細目 | 130 | 都市間交流推進事業 |
| | | 細々目 | 51 | 都市間交流推進事業 |
| 行革大綱の重点事項番号 | | | | |
| 担当部課名 | コード | 40100 | | 担当者氏名 |
| | 名称 | 企画財政部企画課 | | |
| | | 連絡先 | 22 - 9621 (内線) 4117 | |

事務事業の概要(Plan)

| | | | |
|-----------------|--|------|--|
| 対象(誰を、何を) | 市内の民謡愛好団体、大津市民連、市民打ち上げ花火大会および盆踊り大会の来場者 ※対象件数 | | |
| 成果(どうする) | 芭蕉ゆかりの地との交流を広げることができる | | |
| 根拠法令・要綱等 | | | |
| 開始年度 | 平成 6 年度 | 関連事業 | |
| 終了年度 | 平成 年度 | | |
| H23 事業 内容 | 民謡若葉会と比自岐音頭愛好会のメンバーの参加により、伊賀市民連を結成し、びわ湖大津夏祭り江州音頭総おどりに参加。にぎわいフェスタで盆踊り大会を開催し、大津市民連を招待してイベントを盛り上げるとともに交流を図った。 | | |
| 社会情勢の 変化等 | 盆踊り大会は平成20年度からは市民打ち上げ花火大会とともに開催している。 | | |

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

| | |
|------------------|----|
| 1 建設用地 | |
| 2 建設面積 (延床面積) | |
| 3 規模・構造 | |
| 4 総事業費 | 千円 |

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

| | |
|-----------------|-----|
| 1 運営主体 (委託先) | [] |
| 2 配置人員 | 人 |
| 3 年間運営費 | 千円 |
| 4 市内の 類似施設 | |

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

| 活動指標 | 指標名 | 単位 | 実績値 | | 目標値 | |
|------|-----------------|----|-----|-----|-----|-----|
| | | | H22 | H23 | H24 | H25 |
| | 市民打ち上げ花火大会実行委員会 | 回 | 目標 | 5 | 目標 | 5 |
| | | | 実績 | 6 | 実績 | 3 |
| | 盆踊り大会出場者説明会 | 回 | 目標 | 1 | 目標 | 1 |
| | | | 実績 | 1 | 実績 | 1 |

| 成果指標 | 指標名 | 指標設定の考え方 | 単位 | 実績値 | | 目標値 | |
|------|----------------|----------------------|----|-----|-----|-----|-----|
| | | | | H22 | H23 | H24 | H25 |
| | 参加人数(大津市から伊賀市) | 参加人数を増やすことにより、交流が広がる | 人 | 目標 | 35 | 目標 | 35 |
| | | | | 実績 | 24 | 実績 | 25 |
| | 参加人数(伊賀市から大津市) | 参加人数を増やすことにより、交流が広がる | 人 | 目標 | 35 | 目標 | 35 |
| | | | | 実績 | 36 | 実績 | 45 |

| 投入コスト | H22 決算 | | H23 決算 | | H24 当初予算 | | H25 当初要求 | |
|----------------------------|--------|-------|--------|-------|----------|-------|----------|--|
| | (千円) | (千円) | (千円) | (千円) | (千円) | (千円) | (千円) | |
| 直接事業費計 (A) | 778 | 856 | 1,231 | 1,231 | | | | |
| A の 財 源 内 訳 | 国庫支出金 | | | | | | | |
| | 県支出金 | | | | | | | |
| | 地方債 | | | | | | | |
| | その他 | | | | | | | |
| | 778 | 856 | 1,231 | 1,231 | | | | |
| 事業投入人件費 (B) | 0.4人 | 2,880 | 0.4人 | 2,880 | 0.4人 | 2,880 | 0.4人 | |
| フルコスト (A)+(B) | 3,658 | 3,736 | 4,111 | 4,111 | | | | |

事務事業の評価(Check)

| 判断の基準(該当項目に○をつけてください) | | 備考欄(特記事項) |
|-----------------------|--|--|
| 必要性 | 【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業 【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業 【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業 【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業 【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業 【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業 【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業 【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業 【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業 【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業 【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業 【必12】事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業 【必13】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業 【必13】【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】 | 大津市とは芭蕉ゆかりの土地であり、芭蕉生誕350年事業を機に、江州音頭を通して交流を続けている。 |
| 有効性 | 【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。 【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。 | |
| 達成度 | 【達1】当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 【達2】予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】 | |
| 効率性 | 【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 【効3】受益者負担を求めることができる事業である。 【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。 【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。 | |

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

| | |
|----------|---|
| 改善策 | 平成25年度末までに、廃止か継続か決定する。 |
| 昨年度の取組状況 | 【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 平成24年4月に大津市と担当者会議を行い、今後の方向性について協議した。 |

今後の方向性(Action)

| | |
|------------------------------|--|
| 担当課長氏名 | 藤山 善之 |
| 事業の方向性 | 【方向性】 終期設定 【理由】 今後、2年間を目標に現在の交流内容を見直す。 |
| 現時点における課題、その他 | 現在の交流内容では一定の限られた団体での交流になっているため、内容を見直し継続するか、廃止するかを考えることが必要。 |
| 課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする) | 平成25年度末までに、現在の交流事業から交流人口の増加する事業にシフトし、廃止か継続かを判断する。 |

| コード | 名称 | 区分 | コード | 名称 |
|-------------|---------------------------|----------|-------|-----------|
| 事業名 | 100-2 都市間交流推進事業(関連都市との交流) | 会計 | 01 | 一般会計 |
| | | 款 | 02 | 総務費 |
| | | 項 | 01 | 総務管理費 |
| 基本 施策 | 54 地域資源を活かして、他地域と交流する | 目 | 07 | 文化振興費 |
| | | 細目 | 130 | 都市間交流推進事業 |
| | | 細々目 | 51 | 都市間交流推進事業 |
| 行革大綱の重点事項番号 | | | | |
| 担当部課名 | コード | 40100 | 担当者氏名 | 西村 澄子 |
| | 名称 | 企画財政部企画課 | | |

事務事業の概要(Plan)

| | | |
|-----------------|---|-------|
| 対象(誰を、何を) | 芭蕉ゆかりの都市 東大寺の営造や再建などで歴史的に関係の深い都市 | ※対象件数 |
| 成果(どうする) | 伊賀市の文化を発信し、相互の情報交換ができる。 | |
| 根拠法令・要綱等 | 奥の細道サミット規約、東大寺建立にかかわった市町村実行委員会会則 | |
| 開始年度 | 平成 年度 | 関連事業 |
| 終了年度 | 平成 年度 | |
| H23 事業 内容 | 奥の細道 関ヶ原サミットに出席した。 東大寺サミット事務担当者会議に出席した。 | |
| 社会情勢の 変化等 | 奥の細道サミットは24年度は石川県小松市で開催予定。 東大寺サミットは隔年開催で、24年度は福井県福井市で開催予定。 | |

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

| | | |
|---|----------------|----|
| 1 | 建設用地 | |
| 2 | 建設面積 (延床面積) | |
| 3 | 規模・構造 | |
| 4 | 総事業費 | 千円 |

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

| | | |
|---|---------------|-----|
| 1 | 運営主体 (委託先) | [] |
| 2 | 配置人員 | 人 |
| 3 | 年間運営費 | 千円 |
| 4 | 市内の 類似施設 | |

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

| 活動指標 | 指標名 | 単位 | 実績値 | | 目標値 | |
|------|------------|----|-----|-----|-----|-----|
| | | | H22 | H23 | H24 | H25 |
| | 奥の細道サミット参加 | 回 | 目標 | 1 | 目標 | 1 |
| | | | 実績 | 1 | 実績 | 1 |
| | 東大寺サミット参加 | 回 | 目標 | 1 | 目標 | 0 |
| | | | 実績 | 0 | 実績 | 0 |

| 成果指標 | 指標名 | 指標設定の考え方 | 単位 | 実績値 | | 目標値 | |
|------|------------|--|----|-----|-----|-----|-----|
| | | | | H22 | H23 | H24 | H25 |
| | 奥の細道サミット参加 | サミットに参加することにより、芭蕉生誕の地伊賀市を広くPRすることができる。 | 回 | 目標 | 1 | 目標 | 1 |
| | | | | 実績 | 1 | 実績 | 1 |
| | | | | 目標 | | 目標 | |
| | | | | 実績 | | 実績 | |

| 投入コスト | H22 決算 | | H23 決算 | | H24 当初予算 | | H25 当初要求 | | |
|----------------------------|---------------|-------|--------|-------|----------|-------|----------|-------|-------|
| | (千円) | | (千円) | | (千円) | | (千円) | | |
| 直接事業費計 (A) | 331 | | 35 | | 275 | | 142 | | |
| A の 財 源 内 訳 | 国庫支出金 | | | | | | | | |
| | 県支出金 | | | | | | | | |
| | 地方債 | | | | | | | | |
| | その他 | | | | | | | | |
| | 一般財源 | 331 | | 35 | | 275 | | 142 | |
| | 事業投入人件費 (B) | 0.4人 | 2,880 | 0.4人 | 2,880 | 0.4人 | 2,880 | 0.4人 | 2,880 |
| | フルコスト (A)+(B) | 3,211 | | 2,915 | | 3,155 | | 3,022 | |

事務事業の評価(Check)

| 判断の基準(該当項目に○をつけてください) | | 備考欄(特記事項) |
|-----------------------|--|---|
| 必要性 | 【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業 【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業 【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業 【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業 【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業 【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業 【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業 【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業 【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業 【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業 【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業 【必12】事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業 【必13】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業 【必13】【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】 | 松尾芭蕉ゆかりの都市や、東大寺の営造や再建など、歴史的に関係の深い都市が参加するサミットに参加することにより、文化を発信する。 |
| 有効性 | 【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。 【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。 | サミットに参加することにより、全国に伊賀市をPRできる。 |
| 達成度 | 【達1】当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 【達2】予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】 | |
| 効率性 | 【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 【効3】受益者負担を求めることができる事業である。 【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。 【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。 | |

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

| | |
|--------------|--------------------------------|
| 改善策 | 23年度よりサミットへの参加は1名にする。 |
| 昨年度の 取組状況 | 【状況】 計画のとおり進んでいる |
| | 【詳細】 奥の細道関ヶ原サミットへの参加は1名とした。 |

今後の方向性(Action)

| | |
|--|---|
| 担当課長氏名 | 藤山 善之 |
| 事業の方向性 | 【方向性】 現状維持 |
| | 【理由】 伊賀市の文化を広く発信し、サミットに参加する地域の相互の情報交換ができることから、事務事業を継続する。 |
| 現時点における 課題、その他 | 伊賀市が芭蕉翁の生誕地であること、東大寺建立に関わったことを知る人は少ない。 全国に向けて伊賀の文化を発信し続けるために、今後も事業を継続していかなければならない。 |
| 課題、その他に 対する改善策 (いつまでに、 何を、どうする) | 芭蕉ゆかりの都市との情報交換や、サミットに参加することにより、当市の文化を発信する。 |